

## 船舶事故調査報告書

平成26年11月20日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄司邦昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根本美奈

事故種類	浸水
発生日時	不明（平成25年10月25日 17時30分ごろ～11月1日 17時00分ごろの間）
発生場所	島根県松江市恵曇港 恵曇港南防波堤灯台から真方位349° 115m付近 （概位 北緯35° 31.5′ 東経132° 58.3′）
事故調査の経過	平成26年3月12日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第五恵運丸、19トン SN2-2587（漁船登録番号）、有限会社恵運漁業 23.08m×4.26m×1.75m、FRP ディーゼル機関、478.10kW、昭和58年10月20日 第290-45122号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 64歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年6月4日 免許証交付日 平成21年8月12日 （平成27年7月24日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	主機、補機、操舵機等に濡損
事故の経過	本船は、平成24年5月10日ごろ恵曇港の岸壁に休漁船として無人で係留され、船長が、7～10日ごとに係留状態の点検を行い、平成25年10月25日17時30分ごろ係留状態に異常がないことを確認した後、11月1日17時00分ごろ機関室への浸水を発見した。 船長は、排水ポンプで機関室の排水を行った後、浸水箇所を調査したところ、本船の操舵機室に設置され、‘途中で切断された海水取入れ管’（以下「本件海水取入れ管」という。）の止水用塩化ビニール製蓋（以下「止水用塩ビ蓋」という。）の隙間から海水が噴出していたので、造船所に依頼して本件海水取入れ管の防水措置を施した。

<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 東、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穩</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本件海水取入れ管は、外径約60mmの鋼管であり、床面から高さ約15cmの所で切断され、切断部には止水用塩ビ蓋が被せて接着されていた。</p> <p>本件海水取入れ管の上部には、上階の旧浴室（浴槽等は取り外してあり、使用されていない。）に続く塩化ビニール製管付きの鋼管（外径約60mm）が取り付けられており、同鋼管は、塩化ビニール製管取付け部付近で切断されていた。</p> <p>本件海水取入れ管の切断部は、喫水線下約35cm（喫水線から船底までの深さ約50cm）に位置していた。</p> <p>操舵機室船首側隔壁底部には、機関室へ通じる直径約25mmの貫通孔が設けられていた。</p> <p>船長は、平成13年11月ごろ本船を中古で購入した際、操舵機室に本件海水取入れ管が設置されていることを確認していたが、海水の漏えいなかったので、問題ないだろうと思い、点検を行っていなかった。</p> <p>（写真1 操舵機室入口及び旧浴室の状況、写真2 操舵機室内の状況、写真3 防水措置前の本件海水取入れ管の状況、写真4 操舵機室船首側隔壁底部の貫通孔の状況、写真5 本件海水取入れ管の上部の状況 参照）</p>
<p><b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり あり なし</p> <p>本船は、恵曇港に係留中、船長が10月25日17時30分ごろ係留状態に異常がないことを確認した後、11月1日17時00分ごろ機関室への浸水を発見したので、この間において、操舵機室に設置された本件海水取入れ管の止水用塩ビ蓋の接着が緩んで隙間が生じたことから、同隙間から操舵機室に、その後、同室船首側隔壁底部の貫通孔を通じて機関室にそれぞれ浸水したものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が、恵曇港に係留中、操舵機室に設置された本件海水取入れ管の止水用塩ビ蓋の接着が緩んで隙間が生じたため、同隙間から操舵機室に、その後、同室船首側隔壁底部の貫通孔を通じて機関室にそれぞれ浸水したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本件海水取入れ管等の浸水するおそれのある箇所は、定期的に点検を行うこと。</li> <li>・ 係留状態の点検を頻繁に行うこと。</li> </ul>

写真1 操舵機室入口及び旧浴室の状況



写真2 操舵機室内の状況



写真3 防水措置前の本件海水取入れ管の状況



止水用塩ビ蓋

写真4 操舵機室船首側隔壁底部の貫通孔の状況



機関室へ通じる貫通孔

写真5 本件海水取入れ管の上部の状況

